

## 人権講話 R2.12.1

おはようございます。大塩校長先生です。

今日は、「人権」と「いじめ」についてのお話です。低学年の人には、もしかしたらわかりにくいお話かもしれませんが、よく聞いてくださいね。

「人権」という言葉は、「人」という漢字と「権利」という漢字の「権」を書きます。権利とは、簡単に言うと、「していいこと」「やっていいこと」のことです。その字を組み合わせて「人権」という字を書きます。

では、「人権」とは何か。簡単に言うと、「人として持っている権利」、もう少し詳しく言えば、「人として、安心・安全に生きていくことができる権利」のことです。これは、誰もが持っている権利です。そして、人からその権利を取り上げられたり、邪魔されたりすることはありません。ところが、学校の中で様子を見てみると、「おやっ」と思うことがあります。

例えばこんなことです。

- ・ 友達の悪口を言ったり、うわさをしたりする。
- ・ 友達をたたいたり、蹴ったり暴力をふるう。
- ・ 友達を仲間外れにする。
- ・ 友達の嫌がるような意地悪やいたずらをする。

こんなことをする人が近くにいませんか。それは、友達の「人として安心・安全に生活していく権利」を奪っていることになります。そして、それを「いじめ」といいます。

人の人権を奪っている人、つまりいじめを行っている人は、「いじめ」をしていいと認めていることになりますから、いつか、自分も同じような目に合います。

獅子ケ谷小学校の子供たちは、昔から明るく元気で素直な子供たちです。でも、元気があるからといって、友達をたたいていいわけではないし、ちょっと友達とトラブルがあったからと言って悪口を言っていないわけではない。お互いに仲良くしようと意識しなければ、獅子ケ谷小学校の中では人権を守っていくことはできません。

獅子ケ谷小学校でも、校長先生が話を聞いていると、これはいじめだと思われることがあります。「いじめ」は先ほどからいっているように、相手から人権を奪っています。いじめている側の人には、「いじめ」を自ら許しているのですから、いつかは自分にしっぺ返しが必ず来ます。何もしないで側で見ていた人も目の前の「いじめ」を止めなければ「いじめ」を許していることになるので、その人たちもいつかいじめられるようになります。「いじめ」を許してしまえば、獅子ケ谷小学校の中は「いじめ」だらけになってしまいます。いついじめられるか、びくびく怯え、心配しながら生活しなければいけない。そして、それがエスカレートすると、自分がいじめられないために、他の人をいじめ始める。場合によっては特定の人をみんなでいじめる。そんな正義のない学校になっていってしまうのです。

そうならないためにも、相手のことを考えた言い方、行動を大切にしなければいけません。

いじめを見つけたら止める。それができないようだったら大人に言う。学校だったら先生に言って下さい。

校長先生は、「いじめ」は絶対に許しません。獅子ケ谷小学校からは「いじめ」は今すぐになくして下さい。獅子ケ谷小学校のみんなが、安心して安全に生活できるようにしていきたいです。児童の皆さん、全員が協力して獅子ケ谷小学校から「いじめ」のない、人権を大切にしている学校にいきましょう。児童みんなが協力してくださいね。

これで、校長先生の話が終わります。